

## 芸術学部 芸術学科 芸術教養領域

教授 茂登山 清文

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例	前・後期授業全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像と音楽、図版等のマルチメディア資料を講義時に多用した。</li> <li>・スライドに文献や引用文を表示する時に、原文（英語、仏語等）を可能な限り併記した。</li> <li>・毎回、コメントカードを取り、その次の授業でそれに答える形でスライドを再度みせ、授業の効率化を図った。</li> <li>・学外でおこなわれた授業に関連する後援会や展覧会についてレポート提出を求めた。</li> </ul>
◎作成した教科書・教材	前・後期授業全般	教科書は特に指定していないが、講義内容をより高度にまとめて書籍にすることを意図している。

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
愛知県児童総合センター「遊具・遊びプログラム開発研究会」委員長	2016. 4～2017. 3	愛知県児童総合センターが主催する研究会の座長および、その公募展「汗かくメディア」の選考委員長を務めた。あわせて、その講評を執筆した。
中川運河再生文化芸術活動助成選考委員会副委員長	2016. 4～2017. 3	名古屋都市センターが主催する「中川運河助成ARToC10」において、助成対象を審査、選考する委員会の副委員長を務めた。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
◎著書 ヴィジュアルリテラシースタディーズ	共編著	2017. 3	中部日本教育文化会	国内外の研究者による「ヴィジュアルリテラシー」研究の成果をまとめ、編集、出版した。日本においてはいまだ途上にある、高等教育における視覚教育について、デザイン学、情報学を中心とする研究者が、理論と実践の両面から論考を加え執筆した。あわせて参考となる主要な文献の解説を収録している。
◎学術論文 建築物の外壁素材とその経年変化の視覚化のためのアプリケーション	共著	2016. 6	日本図学会「図学研究」第50巻1・2号 通巻149号	都市に風景を取り戻すことを大きな目標とし、価値観と建築におけるデザインリテラシーの関連性について風土学的な観点から考察を行った、その考察をふまえ、建物の経年変化を可視化し、デザインリテラシーの向上を目的としたアプリケーションを設計し開発した。またトライアルテストを行い、フィードバックを得た。

ヴィジュアルリテラシーとは	単著	2017. 3	中部日本教育文化会『ヴィジュアルリテラシー スタディーズ』	見ること、視覚にかかわる力を「ヴィジュアルリテラシー」と言う。いまだ定着してはいないその用語について、歴史を通観しつつ、おおまかな輪郭を描いた。影響力と学術性という観点から二つの定義を解説し、その多様なひろがり、定義の困難さについて考察を加えた。さらに、その必要性と効用をまとめ、ヴィジュアルリテラシーの今後についてふれた。
ヴィジュアルリテラシーと空間	単著	2017. 3	中部日本教育文化会『ヴィジュアルリテラシー スタディーズ』	ヴィジュアルリテラシーを、見る対象としてのイメージに限定することなく、ひろく見ることに関係させ論じようと試みた。H. ガードナーや D. アラスを参照しながら、イメージの理解においても、その参照項として立体物や空間が重要となることを示した。
◎その他 イメージをこえてヴィジュアルリテラシーを考える	共著	2016. 5	日本図学会春期大会	ヴィジュアルリテラシーとは見ることに関わるリテラシーであると考え、視線の対象となるイメージをこえて見ることに着目し、その例を挙げながら、ヴィジュアルリテラシーの定義を再考する契機とする。
大学における「アート・リソース」の活用について	共著	2016. 6	第11回日本博物科学会	大学のもつアート・リソースの活用にむけて、その社会的貢献と、教育・研究との連携という視点にたち、これまでの取組みと今後の方向性をまとめた。
The proposal of utilization of historical relics' data museum own using augmented reality	共著	2016. 7	ICOM 2016, Milano	歴史的遺構に関する知識を人々に広く拡散し、その貴重性を認識することを目的に、ARを用いて、歴史上の時間と現在をつなぎ、同時に、写真をサーバ上にアップロードするシステムにより博物館と遺構の立つ現地 の場所とを繋ぐ。
場所の目録(執筆とトーク)	共著	2016. 9	長者町宮本ビル	長者町宮本ビルで開催された展覧会「場所の目録」に関連して、場所とインデクスという二つのキーワードから、4人のアーティストがひろく可能性について考察を加えた。
A system for connecting the past and present, and the real and virtual of historical sites using ICT	共著	2016. 10	International Symposium on Visual Literacy 2016 "Visual Literacy and Urbanscape"	中川運河の松重開門へ市民を誘導し、その位置にしたがって古写真をスマートフォン上に表示し、また、市民が撮影した現在の開門の写真ネットワークを通じて都市センターでプロジェクションするシステムを提案した。
ICTを用いた歴史遺構アーカイブデータの活用	共著	2017. 3	日本図学会中部支部例会	歴史遺構についての知識を拡散すること、アプリケーション利用者を博物館や図書館へ誘引することを目的に、歴史遺構記録のアーカイブ、写真データを用いたARアプリケーションを開発した。

ブックガイド	単著	2017. 3	中部日本教育文化会『ヴィジュアルリテラシー スタディーズ』	ヴィジュアルリテラシーに関する重要な文献である四冊の著書、ジャン=クロード・フォザ、アンヌ=マリ・ギャラ、フランソワーズ・パルフェ『イメージリテラシー工場—フランスの新しい美術鑑賞法』、W. J. T. Mitchell [『Picture theory』]、James Elkins [『Visual studies: Skeptical Introduction』]、James Elkins [『Visual Literacy』] について解説した。
--------	----	---------	-------------------------------	--